

1 単元名 文明のおこりと日本の成り立ち

2 単元について

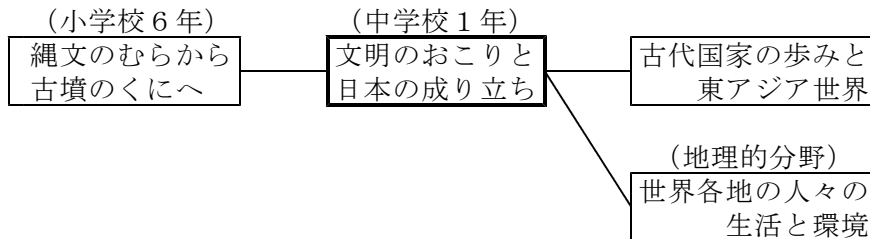
(1) 単元観

中学校での歴史学習を始めるにあたり、前単元で歴史のとらえ方について学習した。歴史とは単なる「過去のこと」「昔のこと」ではなく、「現在や未来につながっているもの」であり、そこにある必然性や継続性を広い視野に立って考えさせることが、歴史学習にとって必要なこととなる。そこで、まず、小学校での既習事項を確認しつつ「歴史の流れ」を学んでいくことの大切さを強調した。その具体的な学習の初めが本単元であり、学習指導要領の『(2) 古代までの日本』を受けて構成した。つまり、本単元を、歴史の中に生きていた人々がよりよい社会を形成するために尽力してきたことが現在に継続していることを実感させる学習の導入にする必要があるということである。そして、未来においては、その社会の形成者が自分自身であることの自覚を促せるような学習にしていきたい。

本単元では、人類がその歴史を刻み始めたところから始まり、日本列島での人々の生活の始まりと国家が形成されていく過程までを学ぶ。世界の古代文明では、中国文明を中心に諸文明の特色を取り扱い、共通する特色と宗教のおこりととの関連について気づかせたい。また、農耕の広まりが生活の変化を生んでいったことを考古学などの成果を活用しながら学んでいく。小さな国が生まれ、さらに周りの国を支配するような大きな国が形成されていく過程のあらましを、東アジアとの関係を考えさせながら学ばせたい。その際、学習内容が「現在や未来につながるもの」と感じさせるためにも、生徒の五感に訴えるような資料を活用することで、生徒の興味・関心を高めさせ、そこから読み取ることができる古代の社会やしくみ、出来事などを理解させたい。そして、何より、その時代に生きていた人々が何を考え、どんなことを目指していたのかを多角的視点から考えさせたい。

本単元の指導を通して、歴史の中に生きているさまざまなことがらを、現代に生きる一人の人間として学び、活かしていこうとする姿勢を持たせる機会としていきたい。

(2) 指導内容の系統



3 生徒の実態について (31名)

(1) 学級集団の実態

本学級の生徒は明るく素直な生徒が多く、協力してよりよい学習環境を整えていこうとする姿が見られる。社会科でも積極的に発表する姿が見られ、小学校時代、苦手意識を持っていた者でも、中学校への進学を機に興味・関心を高めていこうとする様子が伺える。

(2) 単元に関わる実態

・調査結果 調査人数：31名 調査実施日：4月15日

- ①小学校時、歴史の授業が好きでしたか。  
好きだった 16名 嫌いだった 15名
- ②歴史に興味があるか。  
興味がある 22名 興味がない 9名
- ③歴史の学習は何を学ぶことと考えているか。  
昔のこと（出来事や人物、くらしなど）について学び、覚えること 27名  
昔のこと（人物の生き方など）を学ぶことで今やこれからについて考えること 4名
- ④縄文時代・弥生時代・大和朝廷についての特徴を理解しているか。  
理解している 24名 理解していない 7名

・考察

小学校での歴史の授業に対し、好きであったと答えた生徒は半数で調べたことをまとめたりすることが楽しいと答えた。残り半数は、覚えることが多いことを理由に好きではなかったと答えた。ただ、現在の歴史への興味は高く、22名の生徒が昔の人々の暮らしや人物について知りたい気持ちを持っている。生徒の「知りたい」気持ちを満たす調査学習を十分に取り入れていきたい。また、歴史学習についての理解では、「昔のことを学ぶこと」と答えた生徒がほとんどであり、「歴史を通して未来に活かす」と答えた生徒はわずか4名であった。「歴史は昔のことを記憶していく学習ではなく、過去の人々の生き方を学ぶことで未来につなげていくもの」ということを日々の授業の実践により伝えていくことの重要性をあらためて感じる。

本単元に関しては、縄文時代・弥生時代・大和朝廷の特徴について小学校で取り扱っているため、学習事項が定着している生徒が多い。しかし、邪馬台国がわからなかった生徒が11名、卑弥呼がわからなかった生徒が9名と各時代の細かい部分については、定着が不十分である現状が伺える。また、当時の日本と中国との関係についてはほとんどの生徒が理解していない。

本単元では、既習事項を導入として利用・再認識しながら学習を進め、生徒の知識がより深まるように工夫していきたいと思う。また、臨場感を味わえる資料を活用し、学習内容をより身近に感じられるようにしていきたいと考える。

4 単元の日標

- (1) 東アジア世界と古代日本とのかかわりについて、広い視野に立って考え、意欲的に発表できる。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 道具や食料獲得の方法の変化などがもたらした人々の生活の変化について、その原因や結果を考察し、説明することができる。  
(思考・判断・表現)
- (3) 古代文明や日本の成り立ちについて、地図や写真・文献資料などを活用して調べ、わかりやすくまとめることができる。  
(技能)
- (4) 農耕の広まりと共に人々の生活が変化し、やがて国家が形成されていった大きな流れを理解し、ノートにまとめることができる。  
(知識・理解)

5 指導計画(9時間扱い 本時は7時間目)

時間	学 習 内 容	支援及び指導上の留意点	評 価 規 準
1	人類の出現と 旧石器時代	二足歩行、道具(打製石器)、火・言葉の使用の視点から人類の進化の過程を捉えさせる。	人類の歴史に興味・関心をもつことができる。 (関心) 旧石器時代の特色を理解することができる。(技能)(知識)
1	新石器時代 文明のおこりと発展	農耕の発達が古代文明のおこり・発展につながったことと三大文明の共通点について気づかせる。	新石器時代の特色を理解することができる。(技能)(知識) 農耕の広まりがもたらした生活の変化を考察できる。(思考)
1	宗教のおこり	三大宗教のおこりと特徴について、比較させる。	三大宗教のおこりと特徴を理解することができる。(理解)
1	中国文明の発生と 統一帝国	中国の古代文明の特徴を掴ませ、統一帝国の強大さを印象づける。	中国の古代文明の特徴と統一帝国について理解することができる。(技能)(理解)
1	日本列島の誕生と 旧石器時代	日本列島が大陸と陸続きであったことや日本に旧石器時代があったことを示す遺跡からわかることをまとめ、分析させる。	遺跡を活用し、日本列島の成り立ちや旧石器時代の存在を検証することができる。 (思考)(技能)
1	縄文文化と弥生文化	縄文文化と弥生文化を比較検討させることで、それぞれの時代の特色をつかませる。	資料から2つの文化の違いに気づくことができる。(技能)
1 本時	倭の小国と邪馬台国	倭の小国と邪馬台国がなぜ中国と関係を持とうとしたのか、中国の歴史書を読み取ることで考えさせる。	資料から弥生時代の日本と中国の関係を読み取ることができる。(技能)
1	大和朝廷と古墳文化	古墳が出現した意味を資料を読み取り、考えさせる。	資料から古墳文化の特徴を読み取ることができる。(技能)
1	日本と中国・朝鮮半島との交流	日本と中国の関係について考古学の成果を活用して考察させる。	資料から日本と中国の関係を読み取ることができる。(技能)

6 本時の目標

(1) 目標

資料をもとに弥生時代の日本と中国の関係に気づき、話し合うことができる。

(技能)

(2) 展開

学 習 活 動 と 内 容	時 配 形 態	支 援 及 び 指 導 上 の 留 意 点	評 価 ( 方 法 )
<p>1 金印の資料を見て、気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作った。 ・中国からもらった。</li> <li>・「漢委奴国王」と刻まれている。</li> </ul>	5 一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 金印について気づいたことをできるだけ多く発表させる。</li> <li>○ 中国文明を想起させ、優れた文明があったことを思い出させる。</li> </ul>	
<p>2 本時の学習課題について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>弥生時代の日本と中国はどのような関係だったのだろう。</p> </div>	3 一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 金印が日本から出土したことから、中国との関係を考えようとする課題を出させる。</li> </ul>	
<p>3 弥生時代の日本を示している中国の文献から当時の様子をつかみ、発表する。</p> <p>①「漢書」地理志－100余りの国の記述 ②「後漢」東夷伝－「漢委奴国王」の刻印 ③「魏志」倭人伝－邪馬台国</p>	15 個人 ↓ 一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中国との関連がわかる資料があることを紹介し、調べさせる。プリントの資料を活用し、メモを記入してノートにまとめることを指示する。</li> <li>○ どの資料を見ているのかを明確にする。</li> <li>○ 机間指導し、一人でできない生徒への支援をする。</li> </ul>	
<p>4 なぜ倭や邪馬台国は中国に使いを送ったのか考え、班で話し合い、紙にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国と仲良くなりたかった。</li> <li>・中国に攻められないようにするため。</li> <li>・周囲の国に自分の国の力を示す。</li> <li>・自分が王であることを認めて欲しい。</li> </ul>	10 個人 ↓ 班	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まず、個人で考える時間をとる。</li> <li>○ 班で話し合う時、役割分担するように指示する。《司会・書記・発表》</li> <li>○ 出た意見は、ノートにすべて書くよう指示する。</li> <li>○ 机間指導し、さまざまな観点から話し合いが行われるよう支援する。</li> <li>○ 意見がまとまったら、紙に書き、黒板の所定の位置に貼ることを指示する。</li> </ul>	○日本と中国の関係についての考えを話し合いまとめることができたか。(観察・ノート)
<p>5 班ごとの意見を発表し、話し合う。</p> <p>金印を授かったことの意味について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倭の王として認められること(金印を授かること)は、自分の力を内外に示す大きな力となる。</li> </ul>	10 一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 互いの意見を聞き合い、意見を出し合うよう指示する。</li> <li>○ 意見を述べている生徒の意図するところをかみ砕いて説明する。</li> <li>○ 中国に使者を送った一番大きな理由は何か考えさせ、金印を授かった意味につなげる。</li> </ul>	○自分の班の考えを出し、活発に話し合っているか。(観察)
<p>6 本時のまとめをする。</p> <p>①日本が国を形成しようとするころ、中国には優れた文化を持つ国があった。 ②中国との関係をもつことで、自分の力を誇示できる。</p>	7 一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 簡単に説明する。生徒の発表が要点を押さえていれば、下線をひく。必要に応じて、板書する。</li> </ul>	